

緩和ケアの ちょっと タメになる話

Vol.17

第17回のテーマはこちら

「出生直後からの環境調整」

～ディベロップメンタルケア～

「**ディベロップメンタルケア**」という言葉聞いたことがあるでしょうか？

厳密には緩和ケア関連の用語ではなく、**新生児医療**でよく使われる用語となります。

しかし、その本質的な部分は緩和ケアにも通ずるところがあるかなと思っておりますので今回はこのテーマとさせていただきます。

ディベロップメンタルケアというのは「早産児や未熟児、その他何らかの疾患を持って産まれた赤ちゃんに対して、外的ストレスをできる限り軽減した環境を整え、赤ちゃんの発育発達を促していくケア」です。もっと簡単に言うと“**胎内環境**(お母さんのおなかの中)に近い環境を整えるケア”ということになります。

具体的には

光刺激…保育器に布などをかけて蛍光灯の光を遮断するなど

音刺激…保育器の開け閉めを丁寧にする、アラーム音や話し声に配慮するなど

温度管理…保育器内の温度を快適温度に保つ、医療機器を温めてから使うなど

ポジショニング…クッションなどを使い赤ちゃんの体位を良肢位に保つなど

家族とのかかわり…カンガルーケアの実施など

その他には**赤ちゃんの覚醒リズム**に応じたケアの実施なども含まれます。



ディベロップメンタルケアはあくまで**赤ちゃんの発育発達を促す**ことが目的となります。

ですが、これを赤ちゃん以外の患者に置き換えても近いことが言えるのではないかと思います。

病気の子どもにとっても生活環境は大切です。

入院生活という限られた環境の中で、いかに日常に近い状況で過ごしてもらえるか。

子どもにとって適切な環境を整えることは、どの年代であってもやはり発育発達を促す上で重要です。

特に光や音などは意識しないと配慮が不足することもあるかと思います。

ディベロップメンタルケアに倣って“**外的ストレス**”という考え方をあらためて認識してみることで**よりよい生活環境を整える援助**につながるのではないかなと思います。